

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年6月12日

部局名：医歯薬学総合研究科（修士課程）

1. はじめに

医歯薬学総合研究科修士課程は令和5年度より学位プログラム化、新たな教育編成をスタートしている。教育編成の実施は適切であることはもとより、その評価も重要である。自己点検・評価を活用し、より良い教育課程の編成を目指す。

2. 実施体制・手順

教育、学生支援、入試に関する自己点検・評価は、学務委員会にて審議した。

令和6年度に係る自己点検・評価については、学務委員長及び事務担当が根拠資料収集及び自己点検・評価原案を作成した。

令和7年6月5日開催の学務委員会において審議を行った後、6月12日開催の医歯科学専攻会議にて承認を得た。

3. 総括

委員会での審議の結果、一部の項目を除き適切に実施していたことが確認できた。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

該当なし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

特になし。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

特になし。

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

入学定員充足率が3年連続で100%を下回り、2025年度志願者数が入学定員の8割、入学者数が入学定員の7割に留まっていることを受け、入学者獲得に向け、歯学系MPHプログラムの開始、鹿田キャンパスのみならず、津島キャンパスでの説明会を開催、計6回の募集説明会の開催を実施した。さらに第3回入試の実施を行ったが入学者獲得に繋がらなかった。

社会人獲得、入学者の研究時間確保の観点から、より柔軟に授業が受けられるようオンデマンド授業を組み込んだカリキュラム改正を行い、令和7年度より実施する。入学者獲得に向け、更なる対応を行っていく。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

特になし。

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年6月26日

部局名：医歯薬学総合研究科（博士課程）  
医歯薬学域

1. はじめに

医歯薬学総合研究科では、令和7年4月14日付け通知に基づき、令和6年度に係る教育課程、学生支援、学生受入、研究及び総務に関して自己点検・評価を実施し、その結果を以下のとおり報告する。

医歯薬学総合研究科博士課程は令和5年度より改組、新たな教育編成をスタートしている。教育編成の実施は適切であることはもとより、その評価も重要である。

自己点検・評価を活用し、より良い教育課程の編成を目指す。

2. 実施体制・手順

教育、学生支援、学生受入に関する自己点検・評価は、学務委員会にて審議した。

令和6年度に係る自己点検・評価については、学務委員長、各学系部会長及び各学系事務担当が根拠資料収集及び自己点検・評価原案を作成し、令和7年6月3日開催の学務委員会にて審議した。

研究に関する事項については、研究倫理を順守するために、大きく2つの事項で措置を講じている。ひとつめの措置である規程等の整備では、研究倫理にかかる各種審査等を行う委員会規程・内規を中心に整備状況を確認し、もうひとつの措置である教育研修の実施では、コンプライアンス教育、研究倫理教育の2つについて実施状況を確認した。

総務に関する事項については、根拠資料を収集し、点検・評価を行った。

その後、上記のとおり活動毎に行った自己点検及び評価の結果について、医歯薬学総合研究科教授会において審議し、承認を得た。

3. 総括

今回の点検の結果、全ての項目で適切に実施していることが確認できた。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

該当なし

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

特になし

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

特になし

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

特になし

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

特になし